

令和6年度私立学校初任者研修関東地区東京都研修会実施概要
～私立学校教員としての心構えの体得と実践的指導力の育成～

実 施：一般財団法人東京私立中学高等学校協会

会 期：令和6年8月20日（火）～8月22日（木）

会 場：かずさアカデミアホール

参加人員：88名

参加対象者：一般財団法人東京私立中学高等学校協会に加盟する私立中学校・高等学校・中等教育学校に新たに採用された教員（経験者でも可）及びそれに準ずる教員

【日程細目】

第1日目 8月20日（火）

12:30	受 付
13:30	<オープニング>
15:00	ようこそ！東京私学へ
	選択制講義①
	Macro領域
	演 題：「教育は社会をどう変えたのか」
	講 師：桜 井 智恵子 関西学院大学人間福祉学部人間福祉研究科教授
	Mezzo領域
	演 題：「ワークショップ型授業の仕組み～生徒に能動的学習者の資質を見出すために～」
	講 師：荻 宿 俊 文 青山学院大学社会情報学部プロジェクト教授
	Micro領域
	演 題：「集団の場で、多様な個に応じる～生徒理解を関わりに活かして～」
	講 師：高 橋 あつ子 早稲田大学教職大学院教授
17:00	選択制講義②
	内容は①と同じ
18:30	チェックイン・休憩
19:15	夕 食（BBQ）
20:15	懇談会（自由参加）

第2日目 8月21日（水）

6:45	朝 食
9:00	O S T（オープン・スペース・テクノロジー）
10:00	グループワーク
12:00	昼 食
13:15	グループワーク
18:00	共通講義 講 師：平 方 邦 行 東京私学教育研究所所長・一般財団法人日本私学教育研究所所長
19:00	夕 食
19:30	懇談会（自由参加）
21:00	

第3日目 8月22日（木）

7:00	朝 食
9:00	グループワーク
11:00	共有
12:30	<エンディング>
13:00	

概要 ※講師、担当者の所属・職名は日程細目参照。

【オープニング】

オープニングムービーを視聴後、自己紹介を兼ねたグループワーク、今の自分の気持ちをペアになって伝え合うペアワークを行った。続いて、更科幸一・初任者研修委員長から、本研修会の概要の説明があった。次に、主催者を代表し、平方邦行・一般財団法人日本私学教育研究所所長より、「本研修会には様々なプログラムがある。体験しながら本質を掴んでほしい」と挨拶があった。最後に、山根勉・公益財団法人東京都私学財団事務局長より「数年前の研修会の雰囲気とは全く異なり、深化している。実りある研修会となるよう先生方を応援している」と挨拶した。



【選択制講義】Macro 領域・Mezzo 領域・Micro 領域の3つの講義から2つ選択

Macro 領域では、桜井智恵子・関西学院大学人間福祉学部人間福祉研究科教授より「教育は社会をどう変えたのか」、Mezzo 領域では、荻宿俊文・青山学院大学社会情報学部プロジェクト教授による「ワークショップ型授業の仕組み～生徒に能動的学習者の資質を見出すために～」、Micro 領域では、高橋あつ子・早稲田大学教職大学院教授より「集団の場で、多様な個に応じる～生徒理解を関わりに活かして～」をテーマに、講義がなされた。



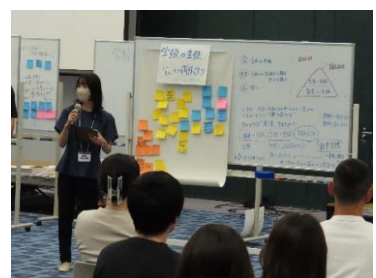
特に Mezzo 領域の講義は各回 24 名の定員制で実施され、参加希望者が殺到した。講義では、ワークショップを「講義など一方的な知識伝達のスタイルではなく、参加者が自ら参加・体験して、共同で何か学び合ったり、創り出したりする学びと創造のスタイル」と定義し、能動的学習者の資質を見出すために必要なスキル獲得に向けて、対話カードや法被などのツールを使ったペアワークやグループワークを体験した。

【共通講義】プレ 22 世紀型教育の準備に向けて時代を動かすレバレッジポイント／東京私学教育研究所（日本私学教育研究所）所長 平方邦行
はじめに、私立学校の前提知識として、私立学校と公立学校の違いや、私立学校令、私学学校振興助成法の説明がなされた。続いて、選択制講義の3つの側面 Macro, Mezzo, Micro と関連付け、「自己と世界」、「自分と学校」、「自分と生徒の関係性」について話した。「先生方の現状」や「卒業時の生徒に求める段階」を Google フォームで問いかけ、リアルタイムで回答結果をフィードバックして、「卒業時の生徒と教師の関係性」について問いを投げかけた。また、「15 歳人口の減少」、「世界の大学生数」、「G7 と BRICS 主要 5 カ国の経済規模の推計グラフ」をもとに、今後の教育ビジョンをどう考えるのかを参加者との意見交換を通じて、22 世紀からバックキャストして考える必要性を説いた。



【グループワーク・共有】

OST（オープン・スペース・テクノロジー）で一人ひとりの興味関心事項や悩みを共有し、約 5 時間のワークの中で参加者 88 人が所属するグループを移動しながら、最終的には 14 グループに分かれて討議し、討議内容や喫緊の課題について発表した。



【エンディング】更科幸一初任者研修委員長

我々教職員は日々の忙しさで、「社会を捉えること」を忘れがちだ。人は人との関わり方から「感謝、優しさ、豊かさ」を学び成長していくが、自分自身の健康が第一である。本研修会を原点に、日本や世界の教育に希望を与えられる教員になってほしいとエールを送った。